

SOPHOS

Security made simple.

Sophos Anti-Virus for Linux Free Edition

スタートアップガイド

製品バージョン: 9.11

ドキュメント作成日: 2015年 9月



目次

1 このガイドについて.....	3
2 Sophos Anti-Virus for Linux Free Edition の機能.....	4
3 システム要件.....	5
4 Sophos Anti-Virus のインストール.....	6
5 オンアクセス検索の確認.....	7
5.1 オンアクセス検索の状態の確認.....	7
5.2 オンアクセス検索の開始.....	7
6 コンピュータの検索の実行.....	8
7 ウイルスが検出された場合の動作.....	9
8 有償版へのアップグレード.....	11
8.1 スタンドアロンで利用する場合.....	11
8.2 Sophos Cloud で管理を行う場合.....	11
8.3 Enterprise Console で管理を行う場合.....	12
9 Sophos Anti-Virus のアンインストール.....	14
10 ヘルプ.....	15
11 ご利用条件.....	16

1 このガイドについて

このガイドでは、無償版の Sophos Anti-Virus を Linux コンピュータにインストールする方法について説明します。

詳細な設定オプションについては、man ページおよび「[Sophos Anti-Virus for UNIX 環境設定ガイド](#)」をご覧ください。

ソフォスの製品ドキュメントは次のサイトから入手可能です。
www.sophos.com/ja-jp/support/documentation

2 Sophos Anti-Virus for Linux Free Edition の機能

無償版 Sophos Anti-Virus for Linux は有償版と同等の機能を持ち、ソフトウェアやウイルス定義ファイルなどのアップデートも無償で利用できます。

ただし、無償版では以下の機能やサービスはご利用になれません。

- ソフォス テクニカル サポートの提供はありません。
- 集中管理機能はありません。

有償版へのアップグレードは、いつでも行うことができます。このガイドではアップグレードの手順についても説明します。

注: 有償版は Sophos Enterprise Console で集中管理することができます。現時点では Sophos Cloud を使用した管理を行うことはできませんが、将来的には可能となる予定です。

3 システム要件

本製品のシステム要件は、ソフォス Web サイトの「システム要件」(<http://www.sophos.com/ja-jp/products/all-system-requirements.aspx>) を参照してください。

言語対応など上記以外のシステム要件の詳細は、リリースノートの「追加情報」という項目を参照してください。

4 Sophos Anti-Virus のインストール

インストール先のコンピュータに root としてログインしてください。すでにインストーラをダウンロードした場合は、ステップ 2 へ進んでください。

1. インストーラをダウンロードしていない場合は、次の手順を実行してください。
 - a) [Http://www.sophos.com/ja-jp/products/free-tools.aspx](http://www.sophos.com/ja-jp/products/free-tools.aspx) を開きます。
 - b) Sophos Anti-Virus for Linux Free Edition を見つけ、「**ダウンロード**」をクリックします。手順に従って tarball を /tmp などの一時ディレクトリにダウンロードします。
2. 一時ディレクトリに移動して次のように tarball を展開します。

```
tar -xzf tarball
```
3. 次のコマンドでインストールスクリプトを実行します。

```
./sophos-av/install.sh
```
4. インストーラの案内に従ってインストールを行います。
 - 自動アップデートの種類を選択するメッセージが表示されたら、「**ソフォス**」を選択します。
 - 使用するバージョンを選択するメッセージが表示されたら、「**無償バージョン**」を選択します。

Sophos Anti-Virus が選択したディレクトリにインストールされます。

これで Sophos Anti-Virus のインストールは完了です。Sophos Anti-Virus は自動的にソフォスのサーバーからアップデートを実行します。自動アップデートは、コンピュータがインターネットに接続されている限り、デフォルトで 60分ごとに行われます。

デフォルトで、Sophos Live Protection は有効になっています。この機能は、疑わしいファイルに対して SophosLabs のデータベースを照会し、最新のデータにもとづいて悪質かどうかを判別します。Sophos Live Protection を無効にする場合は、「[Sophos Anti-Virus for Linux 環境設定ガイド](#)」を参照してください。

また Sophos Anti-Virus からソフォスに製品やプラットフォームの使用情報が送信されます。送信された情報は製品開発に役立てられます。詳細は[サポートデータベースの文章 121214](#) を参照してください。

5 オンアクセス検索の確認

オンアクセス検索はウイルス感染を未然に防ぐもっとも一般的な方法です。ファイルを開く、コピー、あるいは保存するときに Sophos Anti-Virus で検索が実行され、安全な場合のみファイルへのアクセスが許可されます。

オンアクセス検索はデフォルトで有効になっています。必要に応じてオンアクセス検索の状態を確認し、無効になっている場合は開始することができます。

注: ここで説明するコマンドを使うには、root としてコンピュータにログオンする必要があります。

このガイドは、デフォルトのインストールディレクトリ `/opt/sophos-av` に Sophos Anti-Virus をインストールしていることを前提に書かれています。この前提に該当しない場合は、お使いのインストールディレクトリに置き換えてコマンドを実行してください。

5.1 オンアクセス検索の状態の確認

- オンアクセス検索の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。
`/opt/sophos-av/bin/savdstatus`

5.2 オンアクセス検索の開始

オンアクセス検索を開始するには、次のいずれかの手順を実行してください。

- 次のように入力します。
`/opt/sophos-av/bin/savdctl enable`
- 適切なツールを使用して、インストールされたサービス `sav-protect` を起動します。たとえば、次のように入力します。
`/etc/init.d/sav-protect start`
または
`service sav-protect start`

6 コンピュータの検索の実行

Sophos Anti-Virus をインストールしたら、直ちにコンピュータ全体のウイルス検索を実施することを推奨します。これを行うには、オンデマンド検索を実行します。

注: この操作は、特にサーバーの場合、他のコンピュータへのウイルス拡散リスクを最小化するために重要となります。

- コンピュータのオンデマンド検索を実行するには、次のように入力します。
`savscan /`

7 ウイルスが検出された場合の動作

Sophos Anti-Virus でウイルスが検出されると、オンアクセス検索、オンデマンド検索にかかわらず、デフォルトで次の処理が行われます。

- syslog および Sophos Anti-Virus ログにイベントが記録される。
- root@localhost にメール警告が送信される。

また Sophos Anti-Virus では、オンアクセス検索、オンデマンド検索のどちらでウイルスが検出されたかによって次のような警告も表示されます。

オンアクセス検索

オンアクセス検索でウイルスが検出されると、Sophos Anti-Virus によってファイルへのアクセスが遮断され、デフォルトで次のようなポップアップがデスクトップに表示されます。



デスクトップのポップアップ警告が表示されない場合は、かわりにコマンドラインの警告が表示されます。

ウイルスのクリーンアップについて詳細は、「[Sophos Anti-Virus for Linux 環境設定ガイド](#)」を参照してください。

オンデマンド検索

Sophos Anti-Virus のオンデマンド検索でウイルスが検出されると、デフォルトでコマンドラインの警告が表示されます。検出されたウイルスは、>>> と ウイルスまたはウイルスフラグメントで始まる行で報告されます。

```
SAVScan ウイルス検出ユーティリティ
バージョン 4.69.0 [Linux/Intel]
ウイルスデータバージョン 4.69
2871136種類のウイルス、トロイの木馬、ワームを検出します。
Copyright (c) 1989-2012 Sophos Limited.All rights reserved.
システム時刻 13:43:32、システム日付 2012年 6月 11日
```

```
IDE ディレクトリ:/opt/sophos-av/lib/sav  
以下の IDE ファイルを使用しています: nyrate-d.ide  
.....  
以下の IDE ファイルを使用しています: injec-lz.ide
```

クイック検索

```
>>> ウイルス 'EICAR-AV-Test' がファイル /usr/mydirectory/eicar.src で  
検出されました。
```

```
2秒間で 33個のファイルを検索しました。  
1個のウイルスが発見されました。  
1個のファイル (33個中) が感染しています。  
解析用として感染ファイルのサンプルをソフォスまでお送りください。  
お問い合わせ先: www.sophos.com/ja-jp, Email support@sophos.co.jp  
検索が終了しました。
```

ウイルスのクリーンアップについて詳細は、[「Sophos Anti-Virus for Linux 環境設定ガイド」](#)を参照してください。

8 有償版へのアップグレード

ライセンスをお持ちであれば、無償版の Sophos Anti-Virus は簡単に有償版にアップグレードすることができます。

アップグレードするには、サポートの提供がある有償版のソフトウェアがコンピュータにダウンロードされるようアップデートの設定を変更します。

この手順は利用する環境によって異なります。

- **スタンドアロンで利用する場合。** 現在と同じタイプのインストール環境です。
- **Sophos Cloud で管理を行う場合。** Web ベースのコンソールから複数のコンピュータを集中管理する環境です。
- **Enterprise Console で管理を行う場合。** 自社サーバーにインストールしたコンソールから複数のコンピュータを集中管理する環境です。

8.1 スタンドアロンで利用する場合

アップグレードの際はライセンス情報をお手元にご用意ください。

アップグレードには `savsetup` コマンドを使用します。

1. `savsetup` を起動するには次のように入力します。
`/opt/sophos-av/bin/savsetup`
2. **アップデートの環境設定**を表示するオプションを選択します。
3. アップデート元に「**ソフォス**」を選択します。
バージョン 9.11 以降では、1つ目の(プライマリ)アップデート元に加え、2つ目の(セカンダリ)アップデート元を指定できます。スタンドアロンで利用する場合は、セカンダリアップデート元には何も入力する必要はありません。
4. メッセージが表示されたら、アップデート元への接続に必要なプロキシの詳細を入力します (必要な場合のみ)。
5. ライセンスに記載されているユーザー名とパスワードを入力し、サポート対応付き製品にアップグレードします。

これでアップグレードが完了します。

8.2 Sophos Cloud で管理を行う場合

Sophos Cloud で集中管理されるように Sophos Anti-Virus をアップグレードすることができます。

アップグレードの手順は次のとおりです。

1. Sophos Cloud にログインします。
2. 「**ダウンロード**」タブを開きます。

3. 「**サーバー用**」の下の「**Linux**」をクリックし、Sophos Cloud のインストーラをダウンロードします。
4. インストーラを起動します。
既にインストールされている Sophos Anti-Virus が自動的に検出され、Sophos Cloud で管理できるようになります。

8.3 Enterprise Console で管理を行う場合

Sophos Enterprise Console で集中管理されるよう Sophos Anti-Virus をアップグレードすることができます。

アップグレードの流れは以下のとおりです。

- 管理型 Sophos Anti-Virus のサブスクリプションを設定する。
- 各コンピュータで管理型 Sophos Anti-Virus の自動アップデートを設定する。
- コンピュータの集中管理を開始する。

8.3.1 管理型 Sophos Anti-Virus のサブスクリプションの設定

Sophos Enterprise Console で管理機能付きの Sophos Anti-Virus のサブスクリプションを設定します。

Enterprise Console をお持ちでない場合

Enterprise Console を Windows サーバーにインストールします。初期設定中に必ず **Linux** コンピュータを保護するオプションを選択してください。詳細については、「[Enterprise Console クイック スタートアップ ガイド](#)」を参照してください。

次のセクションへ進みます。

すでに Enterprise Console をお持ちの場合

1. 「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. 「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ペインの上部にある「**追加**」ボタンをクリックし、新しいサブスクリプションを作成します。
3. 「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスで、「**Linux**」を選択します。利用可能なバージョンのドロップダウンリストで、デフォルトの「**Recommended**」バージョンをそのまま使用します。

次のセクションへ進みます。

8.3.2 各コンピュータで管理型 Sophos Anti-Virus の自動アップデートを設定

各コンピュータで `savsetup` というコマンドを使用してアップデートの設定を行います。

1. `savsetup` を起動するには次のように入力します。
`/opt/sophos-av/bin/savsetup`

2. **アップデートの環境設定**を表示するオプションを選択します。
3. アップデート元に「**社内のフォルダから**」(バージョン 9.11 以降では「**自社サーバーから**」)を選択します。Enterprise Console によってダウンロードされるアップデート版の配置先フォルダを入力します。

ヒント: このフォルダの場所を確認するには、Enterprise Console の「**表示**」メニューで「**インストーラの場所**」をクリックします。OS の種類ごとにインストーラの場所が表示されます。

4. バージョン 9.11 以降では、2つ目の (セカンダリ) アップデート元を入力できます。1つ目のアップデート元に接続できない場合は、このアップデート元からダウンロードが行われます。

注: 2つ目のアップデート元は、Enterprise Console によってアップデート版が取り込まれる社内ネットワーク上の別のフォルダや、**ソフォス**のサーバーを指定できます。

8.3.3 コンピュータの集中管理の開始

ここでの説明は、Enterprise Console で管理するコンピュータのグループがすでに設定されていることを前提としています。

1. Enterprise Console の「**グループ**」ペインで、「**グループ外のコンピュータ**」をクリックします。
2. Linux コンピュータまたはアップグレードしたコンピュータを見つけます。それらのコンピュータを他のグループにドラッグ&ドロップします。

Enterprise Console で各コンピュータが管理され、所属するグループに指定されているポリシーが適用されます。

9 Sophos Anti-Virus のアンインストール

- Sophos Anti-Virus をアンインストールするには、各 Linux コンピュータに移動し、次のアンインストールスクリプトを実行します。

`/opt/sophos-av/uninstall.sh`

savd というデーモンが起動している場合は、停止を指示するメッセージがスクリプトから表示されます。

アンインストールスクリプトは次の項目を削除します。

- Sophos Anti-Virus に関連するすべてのスタートアップ項目
- `/usr/share/man` にある Sophos Anti-Virus の man ページ
- `/usr/local/bin` にあるオンデマンドスキャナ `savscan`
- `/opt/sophos-av` およびそのコンテンツ

10 ヘルプ

ソフォスが提供する無料ツールのサポートは、以下の Web サイト上での情報提供のみとなります。

- SophosFreeTalk フォーラム (英語) のご利用。 <http://openforum.sophos.com>
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 www.sophos.com/ja-jp/support.aspx
- 製品ドキュメントのダウンロード。 www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx

11 ご利用条件

Copyright © 2015 Sophos Limited. All rights reserved. この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複製、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos、Sophos Anti-Virus および SafeGuard は、Sophos Limited、Sophos Group および Utimaco Safeware AG の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

ACE™, TAO™, CIAO™, DAnCE™, and CoSMIC™

ACE™, TAO™, CIAO™, DAnCE™, and CoSMIC™ (henceforth referred to as "DOC software") are copyrighted by Douglas C. Schmidt and his research group at Washington University, University of California, Irvine, and Vanderbilt University, Copyright (c) 1993-2014, all rights reserved. Since DOC software is open-source, freely available software, you are free to use, modify, copy, and distribute—perpetually and irrevocably—the DOC software source code and object code produced from the source, as well as copy and distribute modified versions of this software. You must, however, include this copyright statement along with any code built using DOC software that you release. No copyright statement needs to be provided if you just ship binary executables of your software products.

You can use DOC software in commercial and/or binary software releases and are under no obligation to redistribute any of your source code that is built using DOC software. Note, however, that you may not misappropriate the DOC software code, such as copyrighting it yourself or claiming authorship of the DOC software code, in a way that will prevent DOC software from being distributed freely using an open-source development model. You needn't inform anyone that you're using DOC software in your software, though we encourage you to let us know so we can promote your project in the [DOC software success stories](#).

The ACE, TAO, CIAO, DAnCE, and CoSMIC web sites are maintained by the DOC Group at the Institute for Software Integrated Systems (ISIS) and the Center for Distributed Object Computing of Washington University, St. Louis for the development of open-source software as part of the open-source software community. Submissions are provided by the submitter "as is" with no warranties whatsoever, including any warranty of merchantability, noninfringement of third party intellectual property, or fitness for any particular purpose. In no event shall the submitter be liable for any direct, indirect, special, exemplary, punitive, or consequential damages, including without limitation, lost profits, even if advised of the possibility of such damages. Likewise, DOC software is provided as is with no warranties of any kind, including the warranties of design, merchantability, and fitness for a particular purpose, noninfringement, or arising from a course of dealing, usage or trade practice. Washington University, UC Irvine, Vanderbilt University, their employees, and students shall have no liability with respect to the infringement of copyrights, trade secrets or any patents by DOC software or any part thereof. Moreover, in no event will Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University, their employees, or students be liable for any lost revenue or profits or other special, indirect and consequential damages.

DOC software is provided with no support and without any obligation on the part of Washington University, UC Irvine, Vanderbilt University, their employees, or students to assist in its use, correction, modification, or enhancement. A number of companies around the world provide commercial support for DOC software, however. DOC software is Y2K-compliant, as long as

the underlying OS platform is Y2K-compliant. Likewise, DOC software is compliant with the new US daylight savings rule passed by Congress as "The Energy Policy Act of 2005," which established new daylight savings times (DST) rules for the United States that expand DST as of March 2007. Since DOC software obtains time/date and calendaring information from operating systems users will not be affected by the new DST rules as long as they upgrade their operating systems accordingly.

The names ACE™, TAO™, CIAO™, DAnCE™, CoSMIC™, Washington University, UC Irvine, and Vanderbilt University, may not be used to endorse or promote products or services derived from this source without express written permission from Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University. This license grants no permission to call products or services derived from this source ACE™, TAO™, CIAO™, DAnCE™, or CoSMIC™, nor does it grant permission for the name Washington University, UC Irvine, or Vanderbilt University to appear in their names.

If you have any suggestions, additions, comments, or questions, please let [me](#) know.

[Douglas C. Schmidt](#)

GNU General Public License

一部のソフトウェアプログラムは、特に複製、変更または特定のプログラム、あるいはその一部の頒布、およびソースコードへのアクセスを許可する、GNU 一般公衆利用許諾契約書 (GNU General Public License、あるいは単に GPL)、または同様のフリーソフトウェア使用許諾契約に基づいてユーザーの使用が許諾 (またはサブライセンス) されています。GPL に基づき使用が許諾され、実行可能なバイナリ形式で頒布されるいかなるソフトウェアも GPL によりソースコードの開示が義務付けられています。このソフトウェアと共に頒布されるこのようなソフトウェアのソースコードの入手を希望する場合は、次のメールアドレスにてソフトウェアまでその旨をご連絡ください: savlinuxgpl@sophos.com。GPL の利用規約は、次のリンク先をご覧ください: www.gnu.org/copyleft/gpl.html。

libmagic – file type detection

Copyright © Ian F. Darwin 1986, 1987, 1989, 1990, 1991, 1992, 1994, 1995.

Software written by Ian F. Darwin and others; maintained 1994–2004 Christos Zoulas.

This software is not subject to any export provision of the United States Department of Commerce, and may be exported to any country or planet.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice immediately at the beginning of the file, without modification, this list of conditions, and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)

ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Medusa web server

Medusa was once distributed under a 'free for non-commercial use' license, but in May of 2000 Sam Rushing changed the license to be identical to the standard Python license at the time. The standard Python license has always applied to the core components of Medusa, this change just frees up the rest of the system, including the http server, ftp server, utilities, etc. Medusa is therefore under the following license:

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of Sam Rushing not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

SAM RUSHING DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL SAM RUSHING BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Sam would like to take this opportunity to thank all of the folks who supported Medusa over the years by purchasing commercial licenses.

OpenSSL Cryptography and SSL/TLS Toolkit

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL license

Copyright © 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

“This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)”

4. The names “OpenSSL Toolkit” and “OpenSSL Project” must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called “OpenSSL” nor may “OpenSSL” appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

“This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)”

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLey license

Copyright © 1995–1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscape’s SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young’s, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

“This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)”

The word “cryptographic” can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

“This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)”

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES

(INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]

Protocol Buffers (libprotobuf)

Copyright 2008, Google Inc.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Google Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Code generated by the Protocol Buffer compiler is owned by the owner of the input file used when generating it. This code is not standalone and requires a support library to be linked with it. This support library is itself covered by the above license.

pycrypto

Distribute and use freely; there are no restrictions on further dissemination and usage except those imposed by the laws of your country of residence. This software is provided "as is" without warranty of fitness for use or suitability for any purpose, express or implied. Use at your own risk or not at all.

Incorporating the code into commercial products is permitted; you do not have to make source available or contribute your changes back (though that would be nice).

— amk (www.amk.ca)

Python

PYTHON SOFTWARE FOUNDATION LICENSE VERSION 2

1. This LICENSE AGREEMENT is between the Python Software Foundation ("PSF"), and the Individual or Organization ("Licensee") accessing and otherwise using this software ("Python") in source or binary form and its associated documentation.
2. Subject to the terms and conditions of this License Agreement, PSF hereby grants Licensee a nonexclusive, royalty-free, worldwide license to reproduce, analyze, test, perform and/or display publicly, prepare derivative works, distribute, and otherwise use Python alone or in any derivative version, provided, however, that PSF's License Agreement and PSF's notice of copyright, i.e., "Copyright © 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Python Software Foundation; All Rights Reserved" are retained in Python alone or in any derivative version prepared by Licensee.
3. In the event Licensee prepares a derivative work that is based on or incorporates Python or any part thereof, and wants to make the derivative work available to others as provided herein, then Licensee hereby agrees to include in any such work a brief summary of the changes made to Python.
4. PSF is making Python available to Licensee on an "AS IS" basis. PSF MAKES NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED. BY WAY OF EXAMPLE, BUT NOT LIMITATION, PSF MAKES NO AND DISCLAIMS ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE OR THAT THE USE OF PYTHON WILL NOT INFRINGE ANY THIRD PARTY RIGHTS.
5. PSF SHALL NOT BE LIABLE TO LICENSEE OR ANY OTHER USERS OF PYTHON FOR ANY INCIDENTAL, SPECIAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR LOSS AS A RESULT OF MODIFYING, DISTRIBUTING, OR OTHERWISE USING PYTHON, OR ANY DERIVATIVE THEREOF, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY THEREOF.
6. This License Agreement will automatically terminate upon a material breach of its terms and conditions.
7. Nothing in this License Agreement shall be deemed to create any relationship of agency, partnership, or joint venture between PSF and Licensee. This License Agreement does not grant permission to use PSF trademarks or trade name in a trademark sense to endorse or promote products or services of Licensee, or any third party.
8. By copying, installing or otherwise using Python, Licensee agrees to be bound by the terms and conditions of this License Agreement.

TinyXML XML parser

www.sourceforge.net/projects/tinyxml

Original code by Lee Thomason (www.grinninglizard.com)

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

zlib data compression library

© 1995-2013 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu